



フェザントで製品の加工を担当する平塚秀子さん

# 技の肖像



1. 牛革をプレス機で押し抜きする。金型は、パーツごとに違うため、工場には1000パターンを超える型がある 2. 持ち手に使う革を、厚さ1mmから0.3mmまですいていく。薄くすることで皮が折り返しやすくなる 3. デザインと機能性にこだわるフェザントのハンドバッグ。地元の熟練職人の手によって作られている

問い合わせ  
フェザント仙台店

柴田郡川崎町大字川内字七曲山 176-9  
TEL 0224-85-1489  
FAX 0224-85-1491  
http://www.pheasant.co.jp/



## 皮革製ハンドバッグ〈川崎町〉

大正末期に西洋風の服装が普及すると、日本でも盛んに皮革製のバッグが使われ始める。昭和以降、女性が社会に出て働くようになると、ハンドバッグは、実用的なアクセサリとして大流行した。フェザントでは、店舗の併設工場で牛革製ハンドバッグなどを手づくりしている。動物の皮は、そのまま使うと腐敗し乾燥すると硬くなる。そこで、樹液や薬品などを皮に定着させる「なめし」が施される。皮なめしと染色を終えた牛革は、プレス機で、数種類のパーツに押し抜きされる。これらをミシンで縫い合わせ、バッグに形作った後、その中にあらかじめ袋状に縫製しておいた裏地を落とす。最後に口周りを縫い合わせればハンドバッグが完成する。「フェザントでは、お客様の要望で革の

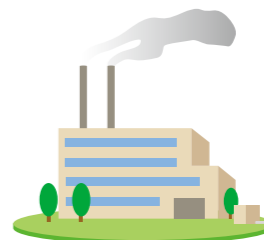
素材や色を変え、10年以上の経験を積んだ熟練の職人たちが、オリジナルのバッグに仕上げられています。そう話す平塚秀子さんが、夫の一夫社長と川崎町に工場を開いたのは2001年のことだった。東京でバッグの製造・卸を営んでいた平塚さん夫妻は、「質の高いバッグを手ごろな価格で、お客様のもとへ届けたい」と思い立ち、直販の道を歩みだした。そして、茨城県に次ぐ拠点に、仙台からほど近いこの地を選んだという。「革のバッグは、使い込むほど味わい深くなります。長く使っていただけのように手づくりし、修繕やリメイクを通して、お客様との長い付き合いが続いていくんです」と話す平塚さんは、ミシンを動かすと、革に再び命を吹き込みはじめた。

### 特集 業界の勉強

## エネルギー・資源業界で生かせる資格

「業界の勉強」では、仕事図鑑で取り上げた業界ならではの知識や資格などについて解説します。今回は、エネルギー・資源業界で働くために必要な「資格」を紹介します。

規定量以上のエネルギーを使用する工場のうち、製造業、鉱業、電気供給業、ガス供給業、熱供給業の5業種は、エネルギーの使用量に応じてエネルギー管理士の資格を持つ「エネルギー管理者」を置くことが、法律によって定められています。資格を取得するには、国家試験に合格する方法と、認定研修を修了する方法の2つがあります。どちらも、一定期間以上の実務経験が必要で、(国家試験は1年以上、認定研修は3年以上)。



### 電気の安定供給を支える「ボイラー・タービン主任技術者」

ボイラー・タービン主任技術者は、火力発電所や原子力発電所、燃料電池設備などの工事・維持・運用に関する安全を監督しています。

資格にはすべての設備を取り扱うことができる1種と、一部の設備(タービン出口の圧力が5880kPa未満など)に限定される2種があります。どちらも、資格取得のための試験はなく、一定期間以上の実務経験をえた後、国に申請することで、資格取得のために必要な実務経験は、最

資格取得のために必要な実務経験は、最

## 仕事図鑑・用語解説

### 溶接 →P.07

2つ以上の金属を熱などで溶融し、接合させる作業。接着と異なる点は、接合した2つの金属が、分子レベルで一体化しているところである。現在、溶接は放電熱で金属を溶解するアーク溶接(電気溶接)とガスの燃焼熱を使ったガス溶接が主流で、溶接する金属の材質や厚さなどによって使い分けられている。



### LNG (Liquefied Natural Gas) →P.11

天然ガスをマイナス162℃まで冷却し液化した無色透明の液体のこと。主な成分はメタンで、太古の動植物の死骸が、地中で長い歳月をかけて変化したものと考えられている。液化すると体積が気体の状態より約600分の1に減るため、天然ガスの大量輸送や貯蔵が可能になった。

終学歴などによって、細かく設定されています(3年~20年)。

### ガス製造の保安を担う「高圧ガス製造保安責任者」

高圧ガス製造保安責任者は、高圧ガスを製造する施設の保安を確保するために必要な知識を持つ専門家です。高圧ガス製造保安責任者は、職務を行う種類や範囲によって、化学責任者(甲種・乙種など)、機械責任者(甲種・乙種)、冷凍機械責任者(第一~三種)というようにいくつか分類されています。どの資格も試験に合格すれば、免状が交付されます。

### 資源の適正な処理を監督する「廃棄物処理施設技術管理者」

廃棄物処理施設技術管理者は、一般廃棄物・産業廃棄物処理施設の維持管理に関する業務の管理・監督を行います。具体的には、廃棄物処理施設を維持管理する事務職員を監督したり、ダイオキシンなどの有害物質の流出を防止するための定期検査などを行ったりしています。資格は、満20歳以上であれば、技術管理者講習会を修了することで取得できます。講習会は、業務の内容によって6つのコース(ごみ処理施設コース、破碎・リサイクル施設コースなど)に分かれていて、試験に合格すれば修了することができます。